

校長室より

第68号

「天空高き」



平成27年2月20日

卒業生に送る一覚悟を持ってー

ホテルオークラの社長である清原當博（とみひろ）氏の言葉です。

「君たちはいま 42.195 km のフルマラソンのスタートを切ったばかり。入社 1 年目なら 1 km、3 年目なら 3 km しか走っていない。マラソンでは約 5 km から給水ポイントが現れ、約 22 km 地点からバナナやチョコなどの栄養補給ができるようになってきている。それらの褒美（ほうび）を味わってみて、どうしても走りたくなければ辞めればいい。ちょっと走っただけで音を上げているようでは、結局どこの業界に行っても同じである。だから初志貫徹で 10 年間は我慢してやってみなさい」

一生懸命取り組むこと。我慢すること。続けること。その中で、人が働くことの意味、働くことの生き甲斐や喜びが得られるのではないのでしょうか。



上を向いて歩こう

時々電車に乗ることがあります。必ず車内で出会（でくわ）す光景は、老若男女、ひたすらスマホとにらめっこしている人の群れです。その風景は、出張や所用で東京や大阪に行く機会がありますが、全く同様です。街中を歩いていても、スマホとにらめっこです。多分日本全国津々浦々、同じような状況だと思えます。

スマホはパソコンの携帯端末機なので、何でもできます。電話・メールはもとより時々刻々の情報、ちょっと気になることも、手早く検索すれば、たちまち結構な数を入力することができます。好きな音楽も聴けるしゲームもできます。これ一台あれば、友達も恋人もいらない……。か、どうかはわかりませんが、もはや肌身離せぬ必需品になっています。

当たり前のことですが、皆さんは授業中や部活動中に、読書しているときにスマホなど見ている人はいません。しかし、移動中や食事中にもかかわらず、スマホを使っ



翔子作

ている人がたくさんいます。もとより、スマホの利便性を否定するつもりはありません。しかし、時には電車の車窓から流れる季節のうつろいを目で見たり、街中を歩きながら、人々の様子、耳に飛び込んでくる声や音、におい等を体感することも、時に必要ではないでしょうか。私たちは、人と人の中で、人と社会の中で、人と自然の中で生活していることを忘れないで欲しいと思います。

改めて、ルールとマナーを考える。

2月4日に1, 2年生を対象にマナー指導がありました。5人の先生が、それぞれの立場でお話をされました。村田先生は自転車の交通ルール・マナーについて皆さんが覚えやすいように、自転車の「はひふへほ」について話をされました。当日の村田先生の内容を少しアレンジしていますが、本当に皆さんにとって大事なことです。是非遵守（じゅんしゅ）して下さい。

は：早めの点灯 ひ：左側通行 ふ：二人乗り禁止
へ：並進禁止 ほ：歩行者最優先

マナーは皆さんがお互いに気持ちよく生活する上で必要なことですが、ルールは皆さんの命を守るためのものです。マナーもルールも大切に。

ちょっとためになるお話？

先日、所用である大学を訪問しました。キャンパス内を歩いていると、前を歩く大学1, 2年生かと思われる学生が「大学に入ったら遊べるから今頑張りなさい、と親に言われていたけど、だまされた。こんなに勉強するなんて」と、うれしそうに話していました。

その会話を盗み聞きながら、思わず私も笑みがこぼれました。「そう、勉強はできるうちにしておくもんですよ」



金澤翔子さんが東日本大震災の復興を願って書かれた作品。

金澤翔子プロフィール

1985年東京都生まれ。ダウン症でありながら、書家として活躍。「見る人を喜ばせたい」という純粋な心から生まれる書は、多くの人に感動を与えている。ゆずの新曲「翔」のCDジャケット。平成24年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字は、彼女の筆による。今年「世界ダウン症の日」には国連本部でスピーチを予定。福島に「金澤翔子美術館」を開設。天皇の御製を揮毫。

母から娘へ「嫌がらせ弁当」－yahoo ニュースより－

1月末に発売された書籍『今日も嫌がらせ弁当』が話題になっています。高校に入って反抗期を迎えた娘に対し、母がとった行動は「3年間、毎日キャラ弁を持たせる」。言葉ではなく弁当を通じて娘へメッセージを送り続けた実話です。

本の著者は、八丈島に住むシングルマザーの ttkk こと Kaori さん。この本は、ttkk さんのブログ「ttkk の嫌がらせのためだけのお弁当ブログ」を元に出版されました。

きっかけは次女の反抗期。「無視されたり、返事をしなかったりといった態度にカチンときて、仕返しの意味を込めて始めました」と ttkk さん。嫌がらせといいながら、次第に作るのが楽しくなってきた「誰かに見てもらいたい」とブログに載せたところ、「驚くほど反響があって快感になった」といいます。

2012年6月22日、初めてブログに掲載した四つのキャラ弁のうちの 하나가「気を付けろ赤ずきん！」。

おにぎりの赤ずきんちゃんに、ウィンナーのオオカミ。込めたメッセージは「ママの口が大きいのはお前を怒鳴るためさ！」だそうです。

その後もホラー映画の主人公の指をウィンナーで表現したり、缶コーヒーのパッケージを忠実に再現したりと嫌がらせは続きました。嫌がらせで始めたキャラ弁ですが、次第にメッセージ色が濃くなっていきます。

期末テスト2日前には、娘が勉強しているかどうか気がなったので、タモリさん風のウィンナーが「ベンきょうしてる？」と尋ねます。

母の日に何ももらえなかったときには、カーネーションを再現して「随時受付中」のメッセージを添えました。

およそ3年間作り続けたキャラ弁も、今年1月27日に最終日を迎えました。その日が近づくにつれ、母からのメッセージが海苔で書かれます。

「すべてが思い通りになるとするな」「無駄と思うことも本気でやれ！」「夢を叶えろ！！」

そして迎えた最終日。

一人で食べきれないほどの重箱の中に、こんなメッセージがありました。

「表彰状 娘殿 あなたは嫌がらせのお弁当を残さず三年間食べ続けました。その忍耐を称えここに表彰します。 母」

その日のブログには、こう記されています。



毎朝 早起きをして作るお弁当は大変で 逃げ出したくなる時もありました。普通に作るだけでも大変なのに キャラ弁ともなると 時間はかかるし 手間はかかるし 大変さは倍以上。

『ママ～、明日は〇〇のキャラ弁ね♪』なんて 娘が喜ぶようになったら キャラ弁なんてやめようと 決めていたけれど そんな声はあるわけもなく・・・ そうなると お弁当作りも戦いよね 私とあなたの戦い 戦いと言っても ママひとりが 勝手に戦ってたんだよね。

でも そんな戦いを続けてるうちに お弁当作りは楽しさになりました。ランチタイムに お弁当のふたを開けた時の あなたの顔を想像しながら作るお弁当。

それは楽しくて・・・ 逃げ出さずに 3年間もお弁当を作り続けられたのは 普段 何もしてあげられなかった あなたへのママなりの愛情。

お弁当を通じ いろんな事を教えてくれたあなたへの感謝の気持ち

お弁当にはたくさんの思いがこもっていたんです。

そんなお弁当が 今日でラストなんて・・・ そう思うと やっぱり悲しいよね

「反抗期の次女が態度を改めるまで」と始めた弁当作り。ブログを読む限り、次女は無関心な対応を続けていたように見えますが、内心は違っていたようです。本の巻末は、娘から母へのメッセージで締めくくられています。

『高校に進学してお弁当が始まり初めてキャラ弁を見たときは「あ…本当にやるんだ…」という感想でした。友達はみんなすごい！可愛い！って言っていましたが私は可愛いなんて思いませんでした。嫌がらせて言ってたけど作るのが楽しかったんでしょ？ きっと（笑）。でも、どんな時でも出来合いのものではなく、手作りだったのはすごいと思っています。そして、卒業して「キャラ弁」がなくなるのは嬉しいですが「お弁当」がなくなってしまうのは悲しい気がします』

この後、夜遅くまで働いた後に早起きして作ってくれたことへの感謝や自分の将来の夢を書いて、次の一文で結んでいます。

『今まで私のためにやってくれたこと、すべてに感謝しています』

ttkkさんは、こう話します。

「本が手元に届いて初めてこの文章を読みました。何度読んでも泣いてしまいます。作り続けて本当によかったです」

素敵なお話ですね。日本の弁当文化にあらためて感服です。

二十四節気 『雨水』（うすい）2月19日頃 雪は雨となり、氷も溶けて水となる時季です。雨水がぬるみ、草木も芽を出し始め、農家では、農耕の準備を始める目安となります
【出典：ちょっと便利帳】